

■徐々に浸透するJ-Debitの導入効果

当初の目的はあくまでも「患者第一」の考えで医療費の支払い方法の手段を広げるというものでしたが、稼動後には特に高額になる入院費用においては、「現金をいちいち数えなくても良くなった」とか「医療費に未収金が減った」など、導入側での二次的ともいえるメリットが出てきています。

公共的な施設である病院は、なかなか大々的に「お支払い方法」を宣伝することはできませんが、デビットカードの導入効果は徐々にいろいろな面で現れてきています。



入院会計窓口

■医療現場でのJ-Debitの課題

同病院では金融機関ごとに異なる取扱時間帯の制約を回避するために、J-Debitが利用できる時間帯を外来は8:30から18:00、入院は9:00から16:30と決めて運用していますが、金融機関ごとの取引回数と利用限度額がネックになっているので、“J-Debitサービスの医療費に限る利用限度額設定”があってもいいのではないかというご意見を今回の取材中に頂戴しました。

クレジットカード・キャッシュカードの偽造が社会的問題となり利用限度額の縮小が推進されていますが、利便性の追求も同時に検討されなければならない課題であることを実感しました。もっと安心して利用できるセキュリティの強化はその解決策の1つであり、日本デビットカード推進協議会としても重要課題として取り上げていくことにしています。

また、全国からの来院がある同病院ならではの指摘といえますが、J-Debit取扱可能な金融機関が一日でも早く、全ての金融機関対応にならないかという要望もありました。全国にある、あまり聞きなれてない金融機関のキャッシュカードは、実際利用してからでないとその取扱の可否が確認できないという窓口の担当者の悩みもあり、J-Debitの持っている基本的な課題を再認識させられる今回の取材でした。



J-Debit端末



企業概要

病院名：東京女子医科大学病院

診療科数：39科

所在地：東京都新宿区河田町 8-1

職員数：医師 881名 看護師 1,169名 その他 1,183名

URL：http://www.twmu.ac.jp/info-twmu/

患者数：入院 1,219名 外来 3,918名(1日平均 平成16年度)

[J-Debit質問箱]



自社のパンフレットにJ-Debitのロゴマークを使いたいのですが、協議会への申請は必要ですか？



協議会では「ロゴマーク使用マニュアル」を制定し、協議会のホームページに掲載しています。J-Debitのロゴマークはマニュアルに従って使用していただければ、特に申請等の必要はありません。2005年5月からロゴマークはホームページから電子データで読み取れるようになりましたので、積極的な利用をお願いします。

[新規加盟店向け支援ツールの制作・配布について]



日本電子決済推進機構(日本デビットカード推進協議会)では、新規にご入会・ご登録いただいた加盟店様向けにサービス開始支援ツールとして、J-Debitロゴマーク入りの「カルトン(金銭受け皿)」を制作・配布することといたしました。

新たにサービスをスタートする加盟店様の店頭・レジ等でご活用いただき、来店するお客さまに「J-Debitサービスを始めました!」といち早くお知らせするとともに、J-Debit加盟店であることをご認識いただくことが狙いです。また、J-Debitの宣伝にもなり、利用促進にもつながります。

新規加盟店様へのカルトン配布についてはホームページにも掲載する予定ですので、金融機関の皆さまにおかれましては、加盟店の獲得に向けたセールスや加盟店契約時にアピールしてください。

(なお、「カルトン(金銭受け皿)」は、新規にご入会・ご登録いただいた直接加盟店様等に限定して配布させていただいております。現在、既存の加盟店様は対象とさせていただいておりませんのでご了承ください。)